

(別紙様式 4 - 1)

熊本県立玉名工業高等学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標
『工業人たる前によき人間たれ』をスローガンに掲げ、「明朗 誠実」「自律 協力」「勤勉工夫」「健康 安全」の教育綱領に則り、心豊かで個性に富み、活力にあふれ、礼節をわきまえた人間性の確立に努め、我が国の産業の振興や地域の発展に寄与できる実践的技術者を育成する。

2 本年度の重点目標
1 安心安全 <ul style="list-style-type: none">・感染防止対策の徹底・心の教育の推進・健康教育、防災教育、安全教育の推進・未然防止対策の徹底(いじめ+ハラスメント+問題行動+事故+交通事故)
2 夢実現 <ul style="list-style-type: none">・進路決定100%・部活動における活躍・資格取得数の増加・入学者数の定員超え

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	信頼される学校づくり	安心安全な学校	・日々変化する感染症に対応した運営により、クラスター0の達成 ・いじめ、ハラスメント、問題行動、事故の未然防止	・新しい生活様式の徹底を図り、濃厚接触者を極力減らす工夫の徹底 ・ハラスメントを許さない人権意識の高い風土づくり	A	・年間を通じて徹底した感染症対策を行った結果、クラスター発生はなく、また校内感染もほとんど見られなかった。 ・研究指定「SOSの出し方に関する教育」を中心に人権意識の高揚に努めた結果、生徒職員の意識が高まっている。
		夢を実現する学校	・生徒の生きたい学校、教師の働きたい学校づくり(学校評価アンケート調査で95%超え)	・研究指定の取組による自己肯定感、自己有用感の育成 ・協力体制ができる職場づくり	B	学校評価アンケートにおける生徒の満足度が91%と目標に達することができなかった。しかし、職員はほぼ目標を達することができ「働きたい学校づくり」に向けた環境改善ができていけると言える。
	働き方改革の視点に立った学校運営	職員の負担軽減のための校務改革	・超過勤務時間縮減のための校務の効率化と組織的な取組 ・業務の平準化への体制づくり	・SKプロジェクトの充実した活動 ・外部人材による支援アドバイザー事業の充実	A	・働き方改革に向けた取組を昨年度に引き続き実施でき、昨年度から17%の向上が見られた。 ・県指定アドバイザー事業を本年度も指定を受け、有効なご助言、ご指導を仰ぎながら進めることができた。
	入学定員の確保	入学希望者の増加	定員割れの状況改善(今年度22名の定員割れ)	・体験入学のPR活動 ・高校魅力化の向上と発信 ・中学校訪問による学校紹介	B	体験入学は延期・中止を余儀なくされたが、その資料を中学校へ届けた。玉工祭での施設等見学、放課後に学校見学会を開催した。前期選抜の出願者数は、前年と同程度だった。

学力向上	教科指導の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・観点別評価を見据えた指導技術の向上 ・専門性の向上 	授業評価の項目において授業に関する興味関心の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価の実施 ・授業改善係の創設と評価法の研修 	A	授業に関する興味関心が、一人一台端末を活用することで若干向上した。授業改善研修を実施できた。
	基礎学力向上と積極的な学習への取組	<ul style="list-style-type: none"> ・自学への取組 ・生徒の理解度の把握と学習意欲の喚起 ・学習習慣の定着 ・欠点者数の比較 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着 ・学習への取組 ・欠点者数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・学力テスト等による基礎学力の把握と向上 ・授業時間数の確保 ・定期考査へ向けた環境づくり 	B	基礎力診断テスト、学力コンテストを実施して、学びに向かう力を高めた。月ごとに授業時間数を見直した。関係保護者会の出席率が向上した。定期考査で廊下監督を配置した。
キャリア教育(進路指導)	<ul style="list-style-type: none"> ・職に就くことを前提とした進路指導の充実 ・生徒一人ひとりの多様な進路実現 ・キャリア教育の充実(人から人材への高校3年間) 	・キャリア教育の充実	・本校独自の「キャリア・パスポート」を作成する。	「進路の手引き」を「キャリア・パスポート」として活用できるものに構成及び作成する。	B	担任及び学年団の意見を集約し、「キャリア・パスポート」の作成を行った。その結果これを「進路の手引き」と別冊として作成・活用することとなった。
		・玉工手帳の積極的活用と活用能力の向上	・「玉工手帳」を活用し、予定を立ててから行動できるようになった」と答える生徒70%以上	・玉工進路通信の発行。月1回ペース(玉工手帳の活用法・進路情報の提供等)	B	学校評価アンケートの結果から、生徒の玉工手帳活用状況は、15%UPしたが70%には届かなかった。しかし職員から生徒への指導は活発になってきている。
		・生徒の自己管理能力、計画力、改善力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者及び求職者の最終合格・内定率100%達成 ・初回受験合格率80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別進学指導の計画及び実施 ・各種検査の実施 ・教職員の研修会やセミナー等への参加 ・全職員による面接指導の実施 ・進路講話及び進路説明会の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・個別進学指導、各種検査を計画どおり実施することができた。 ・コロナ禍で思うように研修やセミナーに参加できなかった。 ・全職員による面接指導を実施できた。 ・進路講話・ライフプランニング授業を実施することができた。 ・就職希望者一次内定率は、昨年度比1.9%UPの90.1%であった。

生徒指導	基本的生活習慣の確立	制服の正しい着用と地域に信頼される生徒の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装や身だしなみの大切さについての理解（服装検査の合格率を各クラス90%以上とする） ・ 地域に信頼される行動の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服装頭髪検査に向けた事前指導の徹底 ・ HR指導及び集会等での指導 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1月時点で全体平均は約84%であった。18クラス中6クラスが年間平均90%以上の合格率となった。3学年の合格率が90%を超え、進路意識の向上による結果であると推測される。
		遅刻の減少	遅刻する生徒の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・ HRによる担任指導及び生徒指導部による正門での声かけ ・ 遅刻の多い生徒への声かけや保護者との連携 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遅刻の回数は、昨年度よりも1.5倍ほど増加した。学年別で見ると、3学年が1.2学年の2倍ほどであった。また、全校生徒のうち20名ほどが年間10回以上の遅刻をしている状況である。
交通安全教育の推進	自転車運転マナー及び原付バイク運転マナーの向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路における交通指導 ・ 自転車二重ロックの徹底 ・ 交通事故の前年比30%減 ・ 交通違反の30%減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現地での登校指導の充実 ・ 交通委員による啓発活動及び職員による指導 ・ 原付通学生の定例会の定着と効果 ・ 原付免許取得者全員に対しての定例会の実施 ・ 担任指導や全校集会等による周知徹底 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学路での現地指導は生徒の通学状況に合わせて複数箇所で開催した。 ・ 自転車の二重ロックの実施率は82.7%であった。交通委員による施錠の呼びかけ活動は一定の効果があったが、生徒一人一人の意識を高めるためには継続した活動が必要である。 ・ 交通事故は昨年度と比べ21件増加した。特に自転車と車との接触事故が増えており、自転車の乗り方について定期的な指導や啓発活動が必要である。 ・ 原付の交通違反は昨年度から減少した。通学生以外の免許保有者に対しての定例会や運転記録証明書の取得などで少しずつ規範意識が高まってきている。 	
人権教育の推進	人権教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の充実と推進体制の強化 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 学習環境の整備 ・ 充実と指導者の育成 ・ 新型コロナウイルス感染症に対する人権的配慮の深化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学期に最低1回程度の校内職員研修を実施 ・ 人権教育便りの配布（学期に1回） ・ 校外の各種研修会への参加を推奨（2回以上参加65%。校外研修が困難な場 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育推進委員会で、校内職員研修の内容を検討 ・ 人権啓発、同和問題への関心を持つよう、最近の問題を提示 ・ 校外研修における全職員への参加の呼び掛けとレポ 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本校職員研修に初の全職員のレポート研修を設定した。 ・ SOS教育と関連させ、新型コロナウイルス罹患患者への差別問題をハンセン病から学ぶ内容で実施した。 ・ 全職員対象の校外研修中止により6月の荒玉地区研究集会講演内容等を職員研修で実施

			合にはレポート研修を実施する) ・学年に応じた、効果的なLHRの実施	ート研修におけるレクチャーの実施 ・人権教育推進委員会や学年会で内容を協議 ・全職員によるレポート研修の実施		・人権教育実施内容はSOS教育と関連させて実施した。 ・夏の職員研修は、本校全職員によるレポート研修会を班別にて実施した。
	学力保障及び進路保障の支援	確かな学力を身に付け、進路を保障する取組の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で学習指導、生徒指導の展開(就職内定率100%)	進路指導部や各学年と連携し、全職員が生徒一人一人を大切にする学習指導、生徒指導の体制を強化	A	3年生は就職試験での違反質問と対応法を学び、問題はなく、また人権・同和教育の視点を取り入れた授業実践を行った。
	命を大切にすることを育む指導	自己肯定感、自己有用感を高める指導の強化	すべての教科で人権・同和教育の視点で命を大切にする授業の展開	H R活動やすべての教科の授業での取組とLHRにおける授業を2回実施	B	各学年ともSOS教育をLHRや授業で実施し、アンケート結果から自己肯定感・自己有用感が高まっている。
いじめの防止等	いじめ防止基本方針の推進	いじめにつながらない、学校全体の風土づくり	・日々の教育活動における注意喚起及び情報提供等の呼びかけ ・生徒の小さな変化を見逃さない職員間の情報共有といじめを許さない体制及び環境づくり	・職員のいじめ防止の研修を実施し、いじめに対する感性の高揚を図る ・INI(いじめなくそう委員会)による啓発活動	B	・いじめに関する研修を実施し、いじめ対応措置等の共有化ができた。また、アンケート等によるいじめの実態把握を行い、早期に組織的な対応ができた。 ・教育相談部及びSCやSSWとの連携を図り、スクールロイヤーによるいじめ防止授業を実施できた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域連携	「地域とともにある学校づくり」の取組	・保護者、地域住民、行政等からの学校への参画並びに支援体制を促進させ、信頼関係の深化 ・「社会に開かれた教育課程」の実現	・学校運営協議会の実施と学校運営に関する基本方針の委員からの承認 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた保護者や地域住民との情報や課題の共有化	B	・学校運営協議会をスムーズに移行することができ、基本方針等を承認いただいた。 ・コロナ禍で地域社会との連携において制限が多く、思うように進まない状況である。今後は現状の中で、可能な限り地域との連携を探っていくことが課題である。
		ボランティア活動の推進	イベントへの参加を通して地域住民との連携	ボランティア活動を通して学校と地域を繋げる。	C	本校主催や地域等のイベントが中止になり、目的が達成できなかった。

産業界や地域に貢献する人材の育成	ものづくり教育を通した人づくり	地域や関連企業との連携	地域や関連企業との連携により、ものづくり教育を充実するとともに職業人としての意識を高める。	工業の関連企業との連携による現場見学、ガイダンス、実技指導等を可能な限り実施	B	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりコンテストに向けて、職員および該当生徒の技術力向上の為に実技講習会を実施し、技術等を身に付けることができた。 資格取得に対応するための校内外連携を図り、安全協会から講師を招き講義を行った。 産学官連携事業として校内駐車場舗装実習、校内特別実習、現場見学、建設産業ガイダンス、防災学習を行った。 インターンシップでは地域の企業に受け入れていただき、キャリア教育の要となっている。
		専門分野への知識や技能の深化	ジュニアマイスター顕彰制度において連続して学校表彰を受ける	<ul style="list-style-type: none"> ゴールド、シルバーだけでなく、ブロンズの認定の推奨 各種資格の周知 課外や模試の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ゴールド19名、シルバー64名、ブロンズ23名、合計106名が取得した。 資格試験の周知ではクラスへのプリント案内だけでなく、HP等の連絡周知等を考える必要がある。 各科ともに資格試験等の朝課外、夕課外が熱心に行われた。
		魅力発信	<ul style="list-style-type: none"> ホームページへの学校の日々の様子の更新を週1回程度、定期更新とともに実施 中学生が入学してみたいと思う、学習内容やものづくりを発信 地域イベントへの参加を通して、本校の魅力を発信 	<ul style="list-style-type: none"> 地域や中学生へ向け本校の様子や各科の学習内容をホームページで紹介し、入学後のミスマッチがないよう発信 地域イベントへの参加、生徒作品の寄贈の実施 各種コンテストの上位入賞や難易度の高い資格取得 	A	<ul style="list-style-type: none"> HPにおいて学校紹介を週1回以上行ったが、情報発信については学校評価において昨年度より低くなっている。12月よりInstagramでの発信を始めている。来年度はより活発な発信が必要である。 地域へはリヤカー、けん引レーキ等の寄贈を行った。また、アルコール噴霧器のLED点灯回路を製作し取り付け、地域の中学校に寄贈した。 ものづくりコンテストでは県大会2種目金賞、九州大会3位、マイコンカーでは県大会優勝、九州大会6位で全国大会へ、エコ電力一は優勝。難易度の高い計算技術検定1級1名、第一種電気工事士試験16名、甲種危険物取扱者1名が合格した。

	部活動の振興	魅力ある部活動づくりとその活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の加入率の向上（昨年度を上回る） ・各種大会において上位入賞及び上位レベルの大会への出場 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動指針にもとづき長期、中期、短期の目標を明確化及び生徒の自主性を伸ばす計画的活動の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育系部活動加入率69.7%と2年連続の減少。文化系部活動の加入率26.5%。合計96.2%となり、文化系部活動への加入率が高くなっている。 ・2学期からほとんどの部活動が新チームとなり部活動指針に基づき計画的に練習に取り組んでいるが、飛躍的な成績結果に結びついていない。
		部活動における安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の健康観察の実施 ・活動場所の安全管理と整理整頓 ・活動中の怪我の予防及び防止の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動顧問会を定期的実施し、情報共有を図り安全管理に取り組む。 ・月ごとの活動内容を明確化し、休養日を定期的に設ける。 ・各部の救急処置講習会への参加と生徒相互の安全意識の向上を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な部顧問会議の実施は出来なかったが、県教委からの通達等においては、職員朝会をとおして、周知徹底を図った。 ・県教委からの通達に従い、適切な部活動実施を図った。特に夏季休業中、冬期休業中の活動を明確にした。 ・各部に呼びかけ、代表者を選出し、玉名消防署に於いて、救急救命を含む、事故防止対応の知識・技術の研修を行った。研修後、各部員への伝達講習を含む安全意識向上に努めた。
保健管理	安心安全な学校づくり	安心安全な学校づくりのための環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検実施100% ・飲料水（冷水機）の水質検査の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月1回の安全点検を実施する。加えて事務室へ連携を図り、整備・修繕等の依頼を行う。 ・保健委員による飲料水の水質検査を定期的実施する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の協力により、安全点検表の回収率もほぼ100%となり、長期休業期間以外は実施することができた。また、事務部担当者より整備・修繕等の回答も示していただき、連携を図ることができた。 ・水質検査及び清掃を保健委員が定期的実施することができた。
	心身の健康を育む	健康に対する意識や自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・Formsによる健康観察の徹底 ・保健だよりによる健康情報の提供 ・部活動生への救急処置講習会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康に関する生徒情報の共有を図る。 ・保健だよりコンクールでの連続入賞 ・体育会系部活動生対象の救急処置講習会の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒によるFormsの健康観察の徹底ができていないため、担任による生徒連絡を行っている。保健だより等を活用して、呼びかけ等実施する必要がある。 ・消防署の協力により救急処置法講習会を実施することができ、事故等に対する対処法や命の大切さを伝えることができた。

	特別支援教育を含めた相談活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を持つ生徒・支援の必要な生徒の早期発見・早期対応 ・特別支援教育に関する職員の共通理解と実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修の実施 ・生徒状況把握のための各種調査の実施 ・組織的な支援体制の構築 ・SC・SSWや関係機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SCを講師に「生徒がSOSを出しやすい教師になろう」のテーマで職員研修を実施した。今後も相談しやすい雰囲気作りのために、継続した意識向上の取組が必要である。 ・「保護者の気づきアンケート」等の各種調査や、週1回の教育相談部会で、生徒の状況を把握・共有し、必要に応じてSC、SSWにつないだ。 ・特別支援教育の年間スケジュールを作成し支援体制の構築を進めることができた。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情を高めるための取組及び他人への思いやりを持つ生徒の育成 ・命あるすべてのものを大切に作る心の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・いのちを大切に作る教育の実施 ・ストレス対処教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年対象の講演会の実施 ・自らSOSを出す方法と、絶望的な気持ちの人への傾聴方法の授業を実施 ・相談室だよりを活用したストレス対処教育の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年対象の講演会を一部ICTも活用して実施することができた。 ・SOSを出しやすい人間関係作り、ストレスマネジメント、SOSの発信先、傾聴のスキルなどに関する授業を実施して、ストレスに対処する力を育成できた。 ・月1～2回の相談室だよりで、ストレスコーピングの方法などを紹介した。

4 学校関係者評価

学校関係者評価委員の皆さまから以下のとおり評価やご提言等をいただいた。

- ・コロナ禍の中、生徒の感染防止に取り組み、多忙の中、各職員との連携を図りながら、生徒の心と体を大切にされた教育実践が行われていることが十分伝わった。これらの教育実践に対して心から敬意を表したい。
- ・毎年就職希望者の100%実現されていて、このことの重要性について玉名市民をはじめ中学生の保護者の理解が不足している気がする。
- ・学校教育の流れも素晴らしいと思うと同時に、2015年9月に国連で採択されたSDGsの活動に沿っていることを整理し、アピールすると本校の存在意義がもっと高まると感じた。
- ・アンケートのほとんどの項目で高評価（良い評価で90%以上）を示していて、学校教育がしっかりできていることの証であると思った。ただし、「生徒が職員に相談しやすい雰囲気」等の項目では一人でも良くない評価があった場合には、細やかな実態の調査が必要であると感じている。
- ・玉名市内の高校の魅力化に取り組んでいきたい。玉名工業高校独自の特色を生かした学校運営を期待する。
- ・生徒たちの学ぶ様子、整理整頓清掃の行き届いた校内、学校の強みを生かした地域貢献の取組や部活動など素晴らしい教育活動が行われていると感じた。
- ・登校時の挨拶が気持ち良く行われている反面、下校時の自転車の並進や正門付近の混雑について工夫が必要であると感じている。
- ・ボランティア活動においてコロナ禍で実施が厳しい状況にあるが、大きな活動を伴わない地域の清掃活動や苦役等への参加を検討して実施してはどうか。
- ・玉工手帳においては、自主性や計画性を育成する大変良い取組であると思う。
- ・働き方改革の取組として、整理整頓、時短、休暇取得等を具現化していることは学ぶ点が大きいと思う。
- ・新しく導入された素晴らしい設備等を拝見し、その充実ぶりに感動した。最新の機器を使って学習できる生徒たちはとても幸せだと思う。

5 総合評価

(1) 全体について

自己評価においては、9個の大項目に対して27の具体的目標及び方策を設けて評価を行った。結果は、A評価9個(33%)、B評価16個(59%)、C評価2個(8%)、D評価0であった。昨年度と比較するとA評価の割合は変わらず、B評価の割合は8ポイント減少、Cの割合は8ポイント増加であった。具体的には、働き方改革の視点に立った学校運営、教科指導の改善、専門分野への知識や技能の深化、安心安全な学校づくり、SOS教育を柱とした命を大切にする教育活動において改善している。

学校評価アンケートにおける質問項目の「玉名工業高校に入学して良かった」という生徒の割合は91%(昨年度から2ポイント減少)、また「自分の子どもを玉名工業高校に入学させて良かった」という保護者の割合は96%(昨年度から1ポイント減少)、「働きやすい学校づくりが進められている」(本年度新設)という教職員の割合は94%という結果であった。

(2) 本年度の重点目標について

ア 安心安全な学校づくり

①感染症対策

コロナ感染拡大防止においては、年間を通じて取り組むことができクラスター発生に至ることもなく、ほぼ校内感染も考えられない感染状況であった。

②いじめの対応

いじめの重大事態に至るケースはなく、積極的にいじめ問題対策委員会を開催し、いじめの認定を行いながら早期の対応を行い、いじめの解消につなげることができた。

③未然防止対策の徹底(いじめ+ハラスメント+問題行動+事故+交通事故)

職員研修や職員朝会、生徒には職員朝会から各担任を通じて情報を積極的に共有したことで、未然防止を図ることができていると考える。

④心の教育の推進

県指定「SOSの出し方に関する教育」が2年目となり、まとめの研究発表会に向けて学校全体で取り組んでいったことで、自己肯定感や自己有用感の向上、人権意識や他者理解が深まっている。

⑤健康教育、防災教育、安全教育の推進

実習における事故は、各工業科において危険予知トレーニングやマニュアル作成を行うなど積極的に事故防止に努めた結果、重傷事故0につなげることができた。

イ 夢を実現する学校づくり

①進路決定100%

ほとんどの生徒の進路先が決定した。特に、就職に強い本校の魅力に今年度は国公立大学2名の合格が加わり、さらに多様な進路希望への対応も可能であることを発信できた。ただし、進路に対する多様な考えを持つ生徒もあり、100%に至っていない現状もある。

②部活動における活躍

部活動においては、加入率が下がっている傾向が昨年度から続いている。また、コロナ禍の中で練習や遠征等ができず、選手強化やチーム強化がうまく進んでいない状況にあった。しかしながら、ものづくりコンテストやエコ電カーにおける県大会、九州大会での活躍、マイコンカーラリーの全国大会出場など、工業系の部活動の健闘が目立っている。

③資格取得数の増加

各科ともに計画的に資格取得のための課外等が熱心に実施され、ジュニアマイスター顕彰制度における認定が100名を超えることができた。今後はさらに各種資格を生徒に周知し、受検者を増やすことが課題である。

④入学者数の定員超え

ほぼ昨年度と同様の志願者数となった。コロナ禍のために体験入学の中止、中学校との連携など積極的な生徒募集が実施できず、文化祭や放課後における学校見学会を実施したところ中学校側のご理解とご協力を得ることができ、この志願者数につながったものとする。コロナ禍の中でも、中学校や地域との連携をさらに深めていくための方策を検討していくことが喫緊の課題である。

6 次年度への課題・改善方策

(1) 学校経営

今年度の本校職員の平均超過勤務時間は、昨年度の8割ほどに削減できている。県教育委員会から「働き方改革支援アドバイザー派遣事業」の指定を受けて、外部講師に定期的に職員研修等で指導を受けている賜と考えている。職員の意識改革も進んでいるものの、今年度の課題を踏まえたうえで次年度の改善方策を引継いで継続させていきたい。

コロナ禍の中で実施できない行事や外部との連携ができなくなることが増えた中で、これまでの学校行事の伝承が懸念され、必要なことについては再度実施していくことを再確認する必要がある。しかしながら、学校行事の精選という観点からも、次年度に向けて再検討することが求められる。また、業務の平準化を目指すために校務分掌の見直しを行う必要がある。

(2) 授業改善と学力向上

今年度タブレットやプロジェクター、また工業科には新しく高価な機器、設備が入ったことにより、授業の充実がより期待できる。今後はICT支援員による研修等を積極的に実施し、ICT活用のノウハウや指導技術を高めていきたい。また、新しい機器を十分活用できるようにするために、メーカーの指導者による研修を取り入れるなど、生徒の関心意欲を高める授業を実践できるよう計画的に支援する体制を整える必要がある。

(3) キャリア教育の充実と進路決定

昨年度から力を入れている玉工手帳の活用では、確実に活用できている生徒が増加しており、保護者、教職員共にその活用の必要性も理解できている。今後は、外部人材を活用した講演や手帳の活用コンテストなど積極的な働きかけを行い、生徒の手帳への関心意欲を高めることが肝要であると考えます。

(4) 生徒指導の充実

本年度県立高校においては、県教育委員会からの指示もあり校則の見直しを実施した。急な依頼ではあったものの、本校においてはある程度予測し進めていたこともあり、円滑に生徒、保護者、学校で検討する機会を2回実施できた。次年度は年間を通じて検討し、話し合いを重ね、見直しを行うようにし、生徒の自主性を引き出す教育に努めていきたい。

(5) 生徒募集と魅力化の推進

喫緊の課題である生徒募集は、本校の魅力化推進と両輪で回していく必要があると考える。今年度県教育委員会主導でスクールミッション作成が行われたものの、郡部の県立高校の定員割れは歯止めが効かず、今後もさらに拍車がかかっていくものと懸念される。本校における対策として、生徒募集と魅力化推進の部門を打ち出した校務分掌の再編を検討する必要性を感じている。

(6) 地域連携

コロナ禍で今年度も地域との連携の機会が減少した。特に小学校、中学校とのものづくりや部活動等における直接的な連携は厳しい状況にある。今後はオンライン等による連携の可能性を探り、小中学校へ働きかけを行っていきたい。

また、学校運営協議会が今年度から開始し、地域の意見が学校に入りやすくなった。今年度は、下校時の自転車、原付バイクの並進、正門付近の混雑などありがたい指摘をいただいている。今後もさらに地域との連携強化に努め、ご意見やご提言等を受けられるよう関係づくりに努めていきたい。